

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

対象：第4学年2組29名

授業者：赤羽 風香

1 単元名 「未来へ！つなげよう！わたしたちと食 ～食品ロス調査隊～」

2 単元目標

身の周りの環境問題やその背景について自分なりの課題を見付け、ごみ問題、食品ロスについて、自分たちにできることを考え、自らの生活や行動に生かすことのできるようになる。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	ア ごみ問題や食品ロスについてその意味や問題点をふまえて課題を見付けている。 イ ごみ問題や食品ロスは、自分たちの生活と深い関りがあることに気付き、多角的・多面的に情報を収集することができる。 ウ ごみ問題や食品ロスに対して、地域や家庭で様々な取り組みが行われており、努力や工夫があることを理解している。	ア 話し合うための材料として、自分の意見をしっかりともち、話合いに参加している。 イ 考えるための技法（チャート）を活用しながら、情報を整理・分析し課題の解決をしようとしている。 ウ 自分たちの考えや実践を相手に分かりやすく工夫してまとめ、表現している。	ア ごみ問題や食品ロスに関心をもち、自分自身の生活を見つめなおし、積極的に学習に取り組もうとしている。 イ 自分や他者のよさに気付き、協力して話合い活動に参加し、よりよい対策を見つけようとしている。 ウ 企業の協力を基に、食品ロスを減らすための給食メニューを考え、実践しようとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

4年生は、総合的な学習の時間で、「環境問題」を大きなテーマとして取り組んでいる。本単元は、環境に関わる問題を自分の身近な問題として捉え、自分たちができることや学校・地域で取り組めることを考え、発信していくことをねらいとしている。1学期には社会科の学習で「ごみ」や「水」について学習し、現在「ごみ」や「水」に関わる問題が多くあることを学んでいる。また、社会科見学で有明水再生センターや埋め立て処分場を見学し、学習したことを実際に自分の目で確かめた。1学期には、総合的な学習の時間で「環境問題について調べよう」という単元を設定し、自分の興味・関心のある課題を選び、そのことについて情報収集を行い、スライドにまとめ、それぞれ発表を行っている。

そこで、本単元では自分たちの生活とも密接に関わっている「ごみ問題」の中から「食品ロス」に焦点をあてた。そこで「このままだと埋め立て処分場がいっぱいになってしまう」「資源ごみが増えてしまう」という課題に気付き、仲間と協力して取組を試行錯誤し、自分たちで取り組んでいく。単なる体験活動ではなく、この活動結果の解釈をもって児童の課題解決能力や思考力を育てることができる点が本単元の大きな目

的の一つである。そして、課題に対し全力で立ち向かっている職業の方々の現状を知ること、将来、社会貢献できる人材、課題に立ち向かい挑戦できる人材を育成する。

（２）創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

活動の中で課題を解決する力を育成することを目指している。しかし、自分たちが生活している家庭や学校、地域で様々な環境問題が密接に関わっていることは理解しているが、それに対してどのような課題があるのか、どうしていかなければいけないのかということを考えることは児童の実態として難しいと思われる。そこで、実際に「食品ロス」の削減の取り組みや研究に関りをもつところで働いている方々と触れ合い、その職業や仕事を理解して、「残食を減らすための給食メニューを考えよう」という活動を設定することで、課題解決の方法や、仲間と意見を交換し合い高め合っていく活動ができると考え、この単元を設定した。

基本的には、児童が、より身近な問題から解決できるように、栄養士からの「残食を減らすための給食のメニュー案を考えてほしい。」というなげかけをきっかけに、「残食を減らすための給食のメニュー」の考案をグループで行う。全校児童にアンケートを取り、統計・調査を基にメニューを考えていけるようにする。また、単なる好き嫌いではなく、学級活動（２）「楽しくおいしい給食」「食べ物の働きを知ろう」で学んだことを生かし、栄養士にアドバイス等をいただきながら話し合い一つに絞っていき、最終的には、給食のメニューとしての実現化、学年だより等でレシピの公開、給食コーナーへの掲示など行い、実践力を身に付けることができるように指導する。

（３）キャリア教育とのつながりについて

日本や世界に起きている環境問題を理解し、どんな課題があり、そのために何ができるのか、解決策を考えるとともに、自分の意見を持ち、正確に伝えることができること、また仲間の意見を受け入れ、話し合うことを通して、今後の社会を積極的に形成することができる「人間関係形成・社会形成能力」を育む。

（４）カリキュラム・マネジメントについて

- ・社会科「わたしたちのくらしとごみ」では、ごみの処理の流れや埋め立て処分場の現状や課題、ごみを減らすための３Ｒについての学習を行い、自分たちにできる活動を考える。
- ・社会科「大切な水」では、健康で快適な生活を守るために安全な水の確保が必要であることを知りそのための対策や事業について知る。
- ・国語科「聞き取りメモのくふう」、「新聞をつくろう」では、インタビューのメモの仕方や要点をまとめる、スライドを作って発表する活動を基に、今回の発表に生かす。
- ・学級活動（２）「楽しくおいしい給食」「食べ物の働きを知ろう」では、栄養士と連携して、栄養バランスについて学習し、今回のメニュー考案に生かす。

５ 児童の実態

１学期の総合的な学習の時間において、自分が興味をもった環境問題について調べ学習を行っている。それによって、世界には様々な環境問題があることや、現在も進行している事実については理解をしてきている。しかし、多くの児童にとって、現実味を帯びていない課題であり、未来に現れる先行きの見えない課題としてあるだけではないかと感じている。社会科の学習や社会科見学を通して、課題に立ち向かいながら働いている人の思いや願いに触れ、さらに自分たちの一番身近にある「ごみ問題」や「食品ロス」に対し、何ができるかを話し合い、取り組んでいく中で、環境問題に目を向け、自分たちで解決策を出し合い、実現させていく喜びを味わわせたい。そのため、より身近な問題である「給食の残食」に視点をあて、自分たちが

給食や家庭で残している食材が資源ごみとして多く排出してしまっていることを減らすために、解決策を見付け、様々な方法で未来を考えられるような児童の育成を目指して指導する。

6 指導の手だて

(1) 創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

「食品ロス」について、自分たちの取り組む環境問題の現状や原因について細かく調べ、自分たちでできることや、これからどのようなことをしていかなければいけないかを考える活動を通して、実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関わろうとする態度を身に付ける。

(2) キャリア教育の4つの能力を育成するために

企業の方に実際に来ていただき、企業の想いや取り組んでいる実態を聞くことによって、環境問題に対する努力を続けていくことの大切さに気付き、よりよい社会を形成しようとする活動を通して「人間関係形成・社会形成能力」、自分たちが課題に対してできることを考え実践しようとする「課題対応能力」を育成する。

(3) ICT等の活用

インターネットを活用して、情報収集を行ったり、スライドを作成したりして、校内にプレゼンテーションを行うことで、目的に応じたICT機器の利用方法を理解し、活用していく。

7 指導計画

時	○主な学習内容 ★指導上の留意点	◆評価規準【観点】(評価方法)
1 5 11	○学習のねらいを知る。 ○自分たちの住んでいる地域、日本、世界の国々に様々な環境問題があることを知る。 ○自分の気になった環境問題について調べる。 ○調べた環境問題や分かったこと考えたことをスライドにまとめる。 ○調べたことを発表する。 ★スライドを使って発表を行うことで、自分が調べたもの以外の環境問題についても知ることができるようにする。	◆自分が気になった環境問題に対し、インターネットを使って調べ、スライドにまとめることができる。 【知】イ(スライド・発表) ◆自分たちの考えや実践を相手に分かりやすく工夫してまとめ、表現している。 【思】ウ(発表)

12 31	○環境問題の原因が「人」であることを知り、身近な問題である「ごみ問題」について考える。 ○自分の学校で「ごみ」に関する問題や現状がどうか考える。ごみの調査を行う。 ★実際に栄養士や用務主事に協力をしていただき、インタビューを行うことで、自分の行動も「ごみ問題」に関わっていることに気付かせる。 ★食品ロスに視点を置き、食品ロスの現状についてしっかり理解できるようにする。 ○食品ロスの問題について知る。 ○食品ロスの問題について、感じたことや考えたことを話し合う。 ○様々な企業が行っている食品ロス対策について調べる。 ○実際に食品ロスの削減の取り組みを行っている企業（ライフコーポレーション）の方に来ていただき、環境や企業が取り組む活動についての話を伺う。 ○お話を聞いたことをまとめ、食品ロスが起きている原因やこのままだとどうなってしまうのかについて考える。 ○自分たちができる対策活動を学校生活に焦点をあて、「残食を減らす給食メニュー作り」に取り組む。 ○栄養士から、給食メニューを提案するためのお話を聞き、メニュー作りに生かす。 ★栄養士と打合せを行い、メニューを考えていくうえで大切にしていることを話してもらうようにする。 ・好きなものばかり出していいわけではないこと ・栄養に偏りがいないか考えること 等 ○「給食メニュー作り」を行うために必要な情報が何か考え、実際に情報を集める。（アンケート等） ・嫌いな野菜、好きな野菜 ・みんなが好きな調理方法 ・残飯の統計 ・好きなメニュー 等 ○集めたデータを分析し、自分たちのグループで考えるメニューの食材を一つに決める。 ★班で思考ツールを使用し、分析に活用する。 ★その素材に着目して分析する。 ・匂い ・見た目 ・味 ・好き嫌い ・調理方法 ○実際に食品ロスの研究に携わっている方（東京バイオテクノロジー専門学校）に来ていただき、体験をしながら活動について知る。	◆食品ロスの問題が、自分や家族、地域の人、一人一人の考え方や日常生活における行動と深くかかわっていることを理解している。 【知】ア（ワークシート） ◆インターネットやインタビューから必要な情報を収集している。 【知】イ（ワークシート） ◆ごみ問題や食品ロスに対して、地域や家庭で様々な取組が行われており、努力や工夫があることを理解している。 【知】ウ（ワークシート） ◆ごみ問題や食品ロスに関心をもち、自分自身の生活を見つめなおし、積極的に学習に取り組もうとしている。 【主】ア（話し合い） ◆「食品ロスの減る給食メニュー作り」を行うために必要な情報が何であるかを試行錯誤し、情報を集めるための方法を考え、実践しようとしている。 【主】イ（話し合い） ◆話し合うための材料として、自分の意見をしっかりともち、話し合いに参加している。 【思】ア（話し合い）
------------------	--	---

	○自分の「食品ロスの減る給食メニュー」を1品考える。 ★なぜそのメニューにしたのかなどの根拠を明らかにするように指導する。 ★4人×6班、5人×1班のグループ分けをする。	
32 (本時)	○個人の意見をもち寄り、グループで話し合い、合意形成しながら「残食を減らす給食メニュー」を一つにまとめ、発表する。 ★思考ツールを活用し、話し合っ、グループで1つに決められるようにする。 ★話し合いの結果、誰かの意見にすることや、意見を合体させて一つのメニューにしてもよいことを伝える。	◆食品ロスの問題の解決に向けて、自分の意見やグループの意見を聞きながら、どの対策がよいかを話し合い、解決策を導き出そうとしている。 【主】イ（話し合い）
33 く 39	○グループで決めた意見を栄養士に中間発表し、意見をいただき、メニューの改善をする。 ★栄養士に協力していただき、意見をいただくようにする。 ・栄養の偏りがいないか ・費用に収まるか ・こうした方がいい というアドバイス 等 ○全校に知らせる計画をたて、実施に向けての準備を行う。 ○実施する。 ★給食に出せるメニューは栄養士に実現してもらい、それ以外のメニューについては学年だより等で紹介していく。 ○保護者や他学年へ向けてメニュー発表会を行う。 ○振り返りを行う。	◆考えるための技法（チャート）を活用しながら、情報を整理・分析し課題の解決をしている。 【思】イ（話し合い） ◆企業の方々に協力していただき、食品ロスを減らすための給食メニューを考え、実践しようとしている。 【主】ウ（ワークシート） ◆いただいたアドバイスを基に、自分たちのメニューを見直そうとしている。 【主】イ（話し合い） ◆伝える相手や目的に応じて、考えをまとめ、表現している。 【思】ウ（スライド）

8 本時の指導（全 39 時間中の第 32 時）

（1）目標

「食品ロス」を減らすための「給食メニュー」を提案し、残食が減るメニューについて話し合い、グループの案を 1 つに決めることができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（評価方法） ★指導上の留意点
導入	○前時の振り返りを行う。 ○本時の学習課題を確認する。	★企業の方や研究に携わっている方々、栄養士さんに聞いた話をもう一度振り返らせ、本時の学習の進め方を確認する。 ★自分たちでとったアンケート結果や統計を用意しておき、話し合いで活用できるようにする。
	【めあて】 「食べ残しが減る給食メニュー」をグループで話し合って決めよう。	
展開	○自分が考えてきた「食べ残しが減る給食メニュー」をグループで発表し合う。 ・野菜が苦手な人が多かったから野菜をすりおろしてカレーに混ぜるメニューを考えました。 ○それぞれの意見を、座標軸を使って整理し、メリットチャートで意見をまとめる。 【座標軸】 意見を書いた付箋を置いていく。 【メリットチャート】 選んだ意見のよいところを書き出し、よりよい意見の出た方を選択できるようにする。 ○考えた内容を全体に発表する。 ・班で決めたメニュー ・そのメニューのよさ、おすすめの所	★前時に自分の意見を理由も含め、ワークシートに書いておくようにし、すぐに話し合いが始められるようにする。 ★座標軸に置けるように、意見を書いた付箋を用意しておく。 ★座標軸・メリットチャートを用いながら、意見をまとめられるようにし、自分たちのグループでどのメニューが食べ残しの削減につながるか、明確にしながら話し合いが行えるようにする。 ★メリットチャートに関しては、使いたいものを自由に使えるようにし、必ず使用しなくてもよいこととする。 ★誰かの意見を選ぶのではなく、意見を合体させてもよいことを伝える。 ◆食品ロスの問題の解決に向けて、自分の意見やグループの意見を聞きながら、どのメニューがよいかを話し合い、解決策を導き出そうとしている。 【主】イ（話し合い）
振り返り	○本時の学習を振り返る ・振り返りカードを書き、発表する。	